

令和7年9月25日 発表

# 中小企業月次景況調査結果

## 令和7年8月分

～令和7年8月 データから見た業界の動き～

令和7年9月25日 発表

猛暑が事業活動に大きく影響  
非製造業の売上高D.I値が大きく低下



## 山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和7年9月25日 発表

## 猛暑が事業活動に大きく影響 非製造業の売上高D.I値が大きく低下

### ■ 概 況

8月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高	▲26 ポイント	(前年同月比 42 ポイント ↓)
収益状況	▲18 ポイント	(前年同月比 ±0 ポイント )
景況感	▲18 ポイント	(前年同月比 14 ポイント ↓)

となり、売上高・景況感が前年同月を下回った。

業種別で、製造業では…

売上高	▲25 ポイント	(前年同月比 ±0 ポイント )
収益状況	▲15 ポイント	(前年同月比 20 ポイント ↗)
景況感	▲25 ポイント	(前年同月比 5 ポイント ↓)

「お中元向け商品が好調（菓子製造業）」「バージン材の売上が順調（山砕石）」など業種によっては需要が堅調であった。一方で、「住宅着工数の減少、猛暑による作業効率の低下、お盆期間の休日増加などにより売上・景況感が悪化（木材・木製品製造業）」「休日が多く稼働が減少（金属製品製造業）」など、猛暑や休日の増加によって製造現場の多くで稼働が減り、売上高D.I値は前月比で大幅に低下した（前月比▲40ポイント）。

また、「昨年から10-15%値上げしているが、物価高騰によるコスト増加や原石の購入価格見直しが収益を圧迫（砂利）」「原材料、包材、運賃等の高騰で利益確保が困難であり、9月から一部商品単価の値上げを行う企業がある（パン・菓子製造業）」など、前年よりも価格転嫁の進展が窺える（収益状況D.I値+20ポイント）一方で、それを上回るコスト増に苦慮する事業者の報告が多かった。

一方、非製造業では…

売上高	▲27 ポイント	(前年同月比 70 ポイント ↓)
収益状況	▲20 ポイント	(前年同月比 13 ポイント ↓)
景況感	▲13 ポイント	(前年同月比 20 ポイント ↓)

「物価高騰や連日の猛暑の影響で来街者数が減少（商店街）」「異常気象の影響で地場野菜の入荷量が減少（青果小売業）」「今夏は特に酷暑で熱中症の危険性から仕事の進みが遅い（型枠大工工事業）」「人手不足により熱中症対策のための交代要員の確保に苦慮（警備業）」など、過去最多日数を記録した猛暑日の影響に加え物価高騰、人手不足も重なり、前年同月に比べ売上高D.I値の落ち込みが激しく（▲70ポイント）、過去1年でも最も低い数値となった。併せて、令和7年6月には熱中症対策が義務化された影響もあり、屋外作業が多い業種では作業効率が低下したこともD.I値の押し下げ要因の一つと考えられる。

収益状況では「仕入材料の価格高騰によりメニューの内容や価格の再検討が必要（美容業）」「販売価格上昇により販売量、受注量が減少（ジュエリー製品卸売業）」を例に、コスト上昇分を販売価格に転嫁せざるを得ない一方で値上げによる消費者の購買意欲の減退は避けられず、事業者は板挟みの状況となっている（収益状況D.I値▲13ポイント）。

業種を問わず人手不足が深刻な中で、「強電を扱う教育機関が少なく強電分野への就職希望者が少ない（電気機械器具製造業）」「施工管理者の絶対数が少ない（鉄骨・鉄筋工事業）」「インバウンド対応スタッフの増強や研修の充実が求められる（宿泊業）」など、特に専門資格や事業者の求める知識や経験を持つ人材を必要とする業種では、その確保・育成が課題である。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています。お気軽にご相談ください。

## ● 製造業

食料品 (洋菓子製造業)	お中元向け商品が好調で、前年同月と比べ売上は101%とわずかに増加した。一方で、乳製品をはじめとする原材料価格は高止まりが続き、利益を圧迫している。今後の原材料市況の動向が業績に与える影響を注視する必要がある。
食料品 (パン・菓子製造業)	前年同月と比べ売上は95%と減少し、原材料、包材、運賃等の高騰から利益確保が困難な状況。9月からNB商品（メーカーが製造する商品）の単価の値上げを行う企業がある。
繊維・同製品 (織物)	郡内の各機屋は細番手や高密度といった難度の高い織物が得意であり、立体感のある柄や高級感のある織物を生産できるため、消費者ニーズの多様化や価値観の変化にも対応できるという特徴がある。しかし、長引く物価高騰の影響により消費者の購買意欲が低下しているため需要増加にはつなげていない。
繊維・同製品 (織物)	多様なニーズに対応する技術を有する当産地では、インテリア地、裏地、傘地、ネクタイ地など幅広い織物を生産しており富士吉田ブランドとしての評価が高まりつつある。これを好機と捉え、今後は各種イベントを通じて知名度向上を図るべく行政等との連携を強化していきたい。
木材・木製品製造	住宅着工数の減少、猛暑による作業効率の低下、お盆期間の休日増加などが要因となり、前年同月と比べ売上は▲25.7%、景況感は▲47%となった。最低賃金引き上げも控え、高まる賃上げ圧力に苦慮している。
家具製造	住宅価格の上昇で消費が冷え込み、住宅メーカーの受注が伸び悩んでいる。今後大きな改善は見込めず、非住宅市場の開拓が必要になる。
窯業・土石 (砂利)	売上が減少している地区が多く、全体では前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲5%となった。昨年から10%～15%値上げを行っているが、物価高騰によるコスト増加や湖からの採取にかかる原石の購入価格見直しが収益を圧迫している。
窯業・土石 (山砕石)	バージン材（新品の材料）の売上が順調に推移し、前年同月と比べ売上は12%増加した。一方、物価高騰などの影響で再生材の出荷・受入状況に停滞が見られるため、再生材の値下げ等価格検討の余地がある。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	今月は、休日が多く稼働が減少。前年同月と比べ売上は▲2%となった。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	業界全体で景気の低迷が続いている中、8月は休日が多いことや受注量の減少で前年同月と比べ売上は▲30%、収益状況は▲25%となった。アメリカ関税が日本経済に与える影響も懸念され、製造業では先行き不透明な状況が続く予想。
電気機器 (電気機械部品加工業)	組合員8社のうち5社は後継者が組合の会議に出席、また直近1年以内に新規加入した2社も若手経営者であるなど、組合員の事業承継は進んでいる。 県内では、弱電（情報・通信分野の電気）を扱う教育機関が多く、弱電分野への就職を希望する学生が多い。一方で、強電（エネルギー利用分野の電気）を扱う教育機関が少ないため、強電分野への就職希望者が少ない。
電気機器 (電気機械部品加工業)	8月は休日が多く半導体関連の低迷が続いたことから、前年同月と比べ売上は▲30%、収益状況は▲20%となった。半導体関連では、一部のAIサーバー分野が堅調であったがそれ以外は総じて低迷している。また、車や医療関連も不調であった。
宝飾 (研磨)	今月は国際展ジャパンジュエリーフェアが開催されたが、前年に比べ入場者数・売上ともにマイナスとなった（前年同月比売上▲20%）。

● 非製造業

卸売 (ジュエリー)	売上・収益状況ともに前年同月と比べ90%に減少。材料高騰分の価格転嫁は徐々に進んでいるものの、販売価格上昇により販売量、受注量は減少している。8月後半に開催された国際展ジャパンジュエリーフェアでは、国内外の入場者数が減少し多くの事業者で売上が半減した。出展経費の上昇により採算性も乏しく、展示会出展に慎重な動きも見られる。
小売 (青果)	異常気象の影響で、地場野菜の入荷量は少なく高値となった。物価高騰が利益を圧迫し、前年同月と比べ売上は▲12.9%、収益状況は▲10%となった。
小売 (水産物)	買い込み需要の鈍化、商品の値上げ等により前年同月と比べ売上は93.4%と減少。一部の事業者はコロナ融資の返済で資金繰りに苦慮している。
小売 (電気機械器具小売業)	前年同月と比べ売上は▲27%、収益状況は▲15%となり、夏物の主力商品であるエアコン・冷蔵庫の不振が全体を大きく押し下げ、主力家電品はいずれも前年割れとなった。家電は買い替えサイクルの影響もあるが、季節商品の不振は経営への打撃が大きい。
小売 (ガソリン)	今月は原油価格や為替が安定しており、卸売・市場価格ともにほとんど動きは見られなかった。7月の参議院選挙では、当業界が長年主張してきたガソリン暫定税率廃止を掲げる政党が躍進したため、今秋の国会審議を注視しつつ、課税在庫の問題や市場への影響などについて上部団体と連携しながら対応していきたい。
商店街	売上は前年並みであるが、仕入価格の上昇により収益状況は悪化した。
商店街	物価高騰や連日の猛暑の影響で来街者数が減少、個店の売上は悪化している。大月駅周辺に有料駐車場が乱立している影響で組合が運営する駐車場の利用者も減少し、全体では前年同月と比べ売上・収益状況ともに94%と悪化した。
宿泊業	8月は夏休みイベントが多く、インバウンドや国内旅行客の増加により稼働率は前年同月を上回った。一方で、人材不足が依然として課題であり、今後はインバウンド対応スタッフの増強やスタッフへの研修の充実が求められる。
美容業	仕入材料の価格高騰により、メニューの内容や価格の再検討が必要。 人材不足も深刻で、求人広告を出しているものの安定した雇用確保には繋がっていない。
一般廃棄物処理	全国各地のごみ収集車や広域ごみ処理施設で、リチウムイオン電池（モバイルバッテリー等に利用されている小型充電式電池）による火災事故が多発している。リチウムイオン電池の日常生活での使用場面の拡大に加え、市民が誤って可燃ごみに混入して排出してしまうことが原因となっており、不燃ごみであれば発見が可能なものの、可燃ごみに混ざると検知は困難である。施設で火災が発生すると広域内のごみ搬入が停止し、ライフラインにも影響が及ぶ。火災防止には収集業者の努力だけでは限界があり、自治体によるリチウムイオン電池に特化した処理計画の再構築が求められる。
警備業	8月は花火大会など夏のイベント警備が多く天候にも恵まれたため、前年同月と比べ売上は8%増加した。一方で、猛暑日が続く熱中症対策として交代要員を確保する必要があり、人手不足の中で警備員の確保に苦慮した。また、警備員の高齢化による退職者増加の一方で新規採用者がいない状況が続いており、業界全体で根本的な人材確保策の検討が急務となっている。
自動車整備業	車検台数について、普通車16,235台（昨年同月▲364台） 軽自動車12,142台（昨年同月+398台）※集計の都合上、7月末数値 租税特別措置法施行令改正に伴い、13年経過又は18年経過の軽自動車にかかる自動車重量税の重課適応月が12月から11月に変更されます。
建設業 (総合)	8月の県内公共工事は前年同月比で件数は▲5.3%となったが、請負金額は24.2%増加した。8月末累計は件数は▲7.7%となったが、請負金額は0.3%増加した。
建設業 (型枠)	今夏は、特に酷暑で熱中症の危険性から仕事の進みが遅く公共工事でも不調が多いため、前年同月と比べ収益状況は▲10%となった。今後、公共工事・民間工事ともに増加が見込まれるが、各社職人不足が課題となっている。

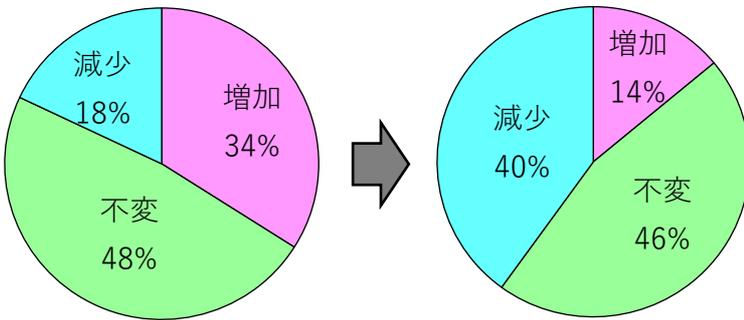
<p>建設業 (鉄構)</p>	<p>現在は仕事量を確保できているが、来年は減少が見込まれる。再来年は停滞していた物件が動き始めることで仕事量が大幅に増加する見込み。 一方で、施工管理者の絶対数が少なく中小の建築・建設会社は人材を十分に確保できず、仕事を受注できない状態が続いている。</p>
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>工事の発注状況は改善傾向にあり、前年同月と比べ売上は115%、収益状況は110%と好転した。人材不足の解消に向け、組合として対策を検討している。</p>
<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>業界では、管材、住宅設備・衛生陶器、ポンプ・空調等、管工事で取り扱われる資材の価格転嫁が進んでいる。</p>
<p>運輸 (バス)</p>	<p>前年同月と比べ売上は▲20%、収益状況は▲10%と、上半期の仕事量が激減している。人材確保が難航しているうえに退職者も増加している。</p>
<p>運輸 (トラック)</p>	<p>酷暑の影響で季節需要の高い輸送品目は荷動きが好調であったが、それ以外の荷動きは鈍かった。 今後は気温の低下により荷動きの改善は期待されるが、物価高・燃料高の影響で経営状況の先行きは依然として厳しい。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2024年8月	2025年7月	2025年8月	2024年8月	2025年7月	2025年8月	2024年8月	2025年7月	2025年8月
売上高	▲ 25	15	▲ 25	43	3	▲ 27	16	8	▲ 26
収益状況	▲ 35	▲ 25	▲ 15	▲ 7	▲ 10	▲ 20	▲ 18	▲ 16	▲ 18
景況感	▲ 20	▲ 10	▲ 25	7	▲ 13	▲ 13	▲ 4	▲ 12	▲ 18

※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

売上高 (前年同月比)

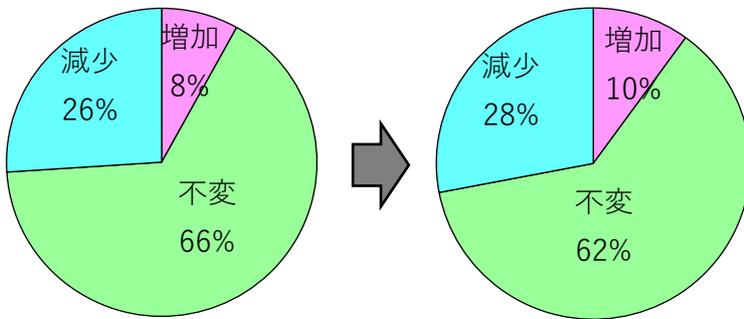


令和6年8月

令和7年8月

- ・D I 値 ▲26 (前年同月比 ▲42 ポイント)
- ・業種別D I 値
  - 製造業 ▲25 (前年同月比 ±0)
  - 非製造業 ▲27 (前年同月比 ▲70)
- ・前月比D I 値
  - 製造業 ▲40
  - 非製造業 ▲30

収益状況 (前年同月比)

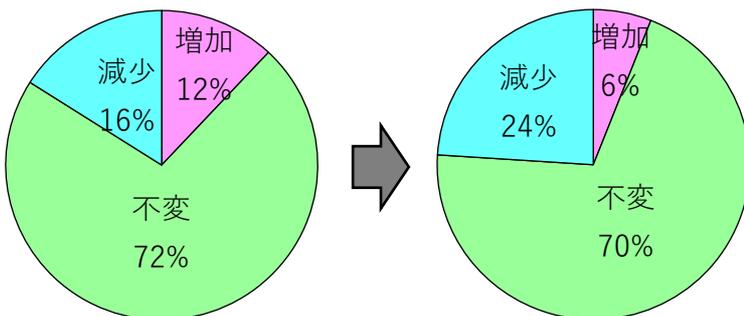


令和6年8月

令和7年8月

- ・D I 値 ▲18 (前年同月比 ±0 ポイント)
- ・業種別D I 値
  - 製造業 ▲15 (前年同月比 +20)
  - 非製造業 ▲20 (前年同月比 ▲13)
- ・前月比D I 値
  - 製造業 +10
  - 非製造業 ▲10

景況感 (前年同月比)

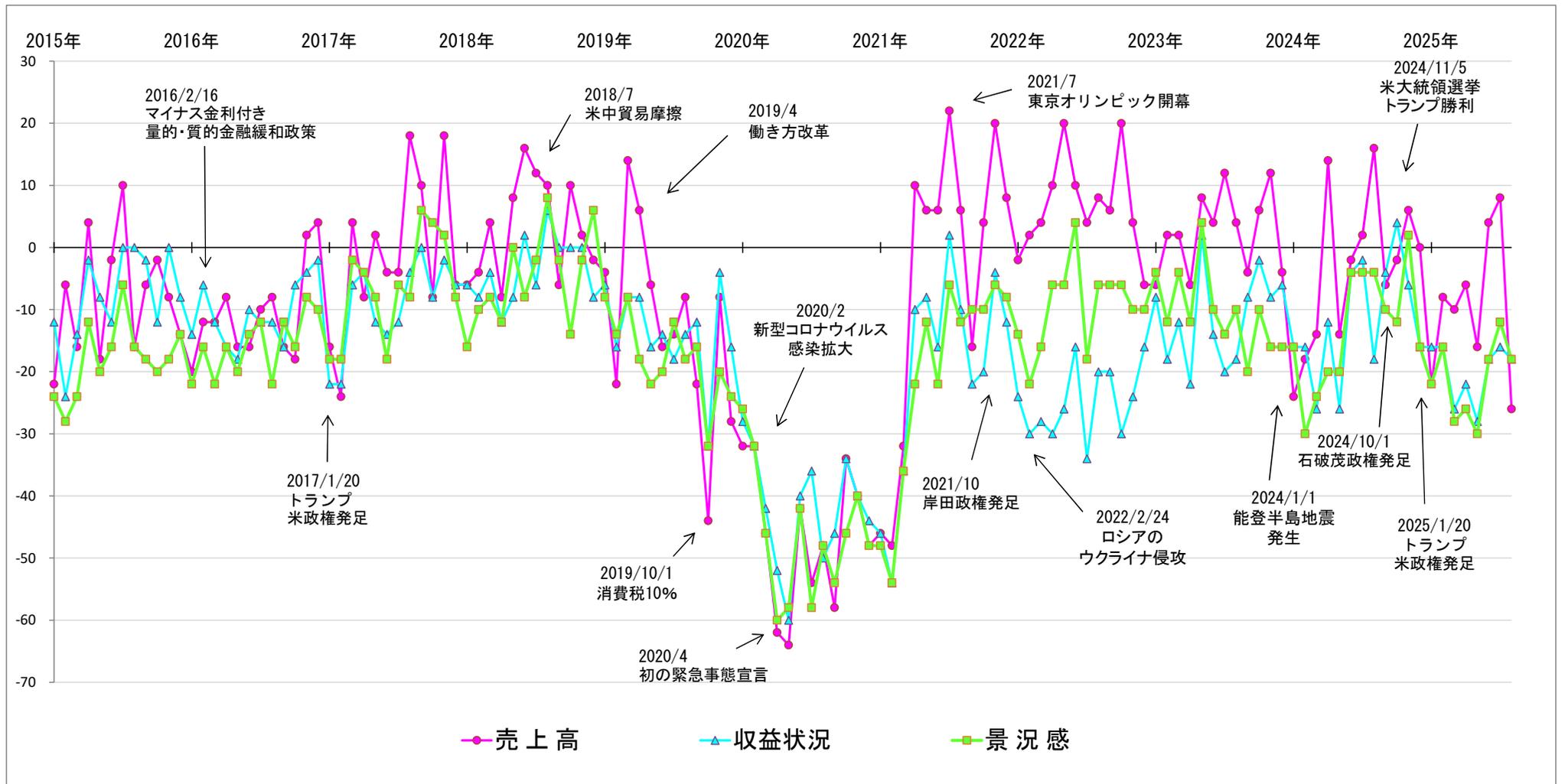


令和6年8月

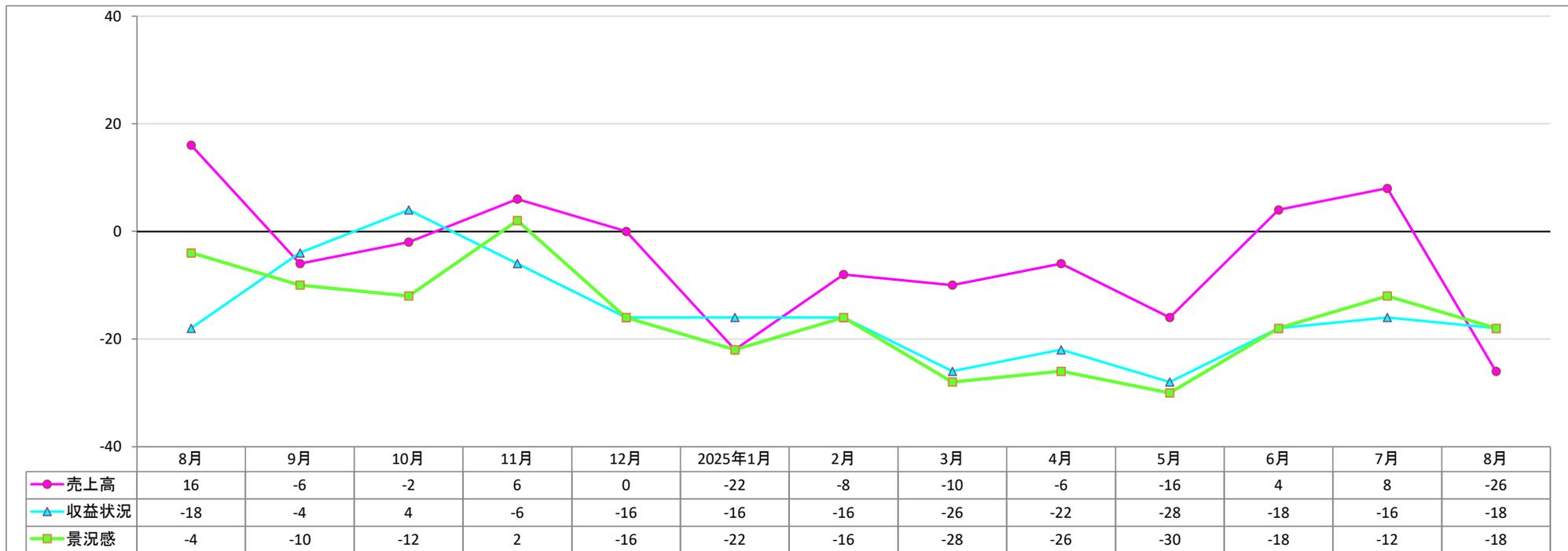
令和7年8月

- ・D I 値 ▲18 (前年同月比 ▲14 ポイント)
- ・業種別D I 値
  - 製造業 ▲25 (前年同月比 ▲5)
  - 非製造業 ▲13 (前年同月比 ▲20)
- ・前月比D I 値
  - 製造業 ▲15
  - 非製造業 ±0

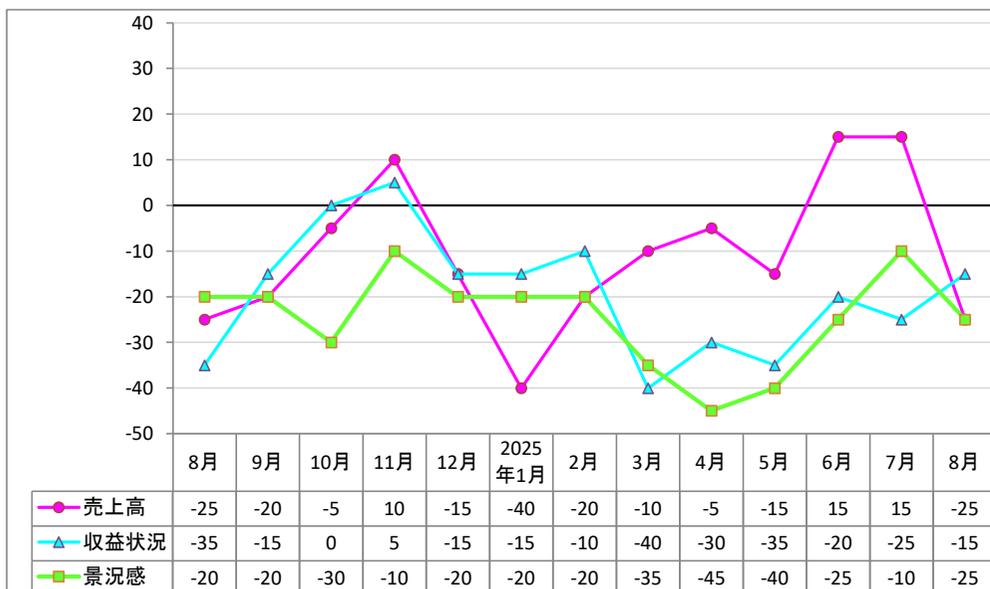
# D.I値の推移①(過去10年間) 2015年1月～2025年8月



# D.I値の推移②(過去1年間) 2024年8月～2025年8月



## 【製造業】



## 【非製造業】

